

おしえて！エコチル先生、今回は、1月25日に開催されたシンポジウムについて、山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授の、山縣然太郎（やまがた・ぜんたろう）先生に、お話を伺いました。

※本稿は、第4回エコチル調査シンポジウム（平成27年1月25日開催）で行われた発表の一部をインタビュー形式にアレンジし、一部加筆したものです。

今年のシンポジウムは、尾木ママこと、法政大学教職課程センター長・教授、教育評論家の尾木直樹先生のご講演で盛り上がりました。テレビで拝見するいつものおちゃめな尾木ママの軽快なトークは参加者をくぎ付けにする一方で、いじめで亡くなった子どもの話の際は、声のトーンも変わって教育者としての尾木先生の高いご見識を伺うことができました。また、各ユニットからの取組などを紹介するポスターはいずれも力作でユニット特有の文化も感じることができました。

シンポジウムの1部では、日本科学未来館の科学コミュニケーターの本田ともみさんがファシリテーターとして、スライド資料の作成段階から関わっていただきました。川本俊弘コアセンター長からはエコチルの概要と現状のお話を、国立成育医療研究センターの大矢幸弘先生にはアレルギー疾患の研究現状のお話を、私は子どもをとりまく環境についての話をしましたが、いずれもわかりやすく進めてくださいました。今後、エコチル調査から多くの成果が出てきますが、科学コミュニケーションの専門家と一緒に発表の方法を検討して、市民にわかりやすく発信することの重要性をあらためて認識しました。

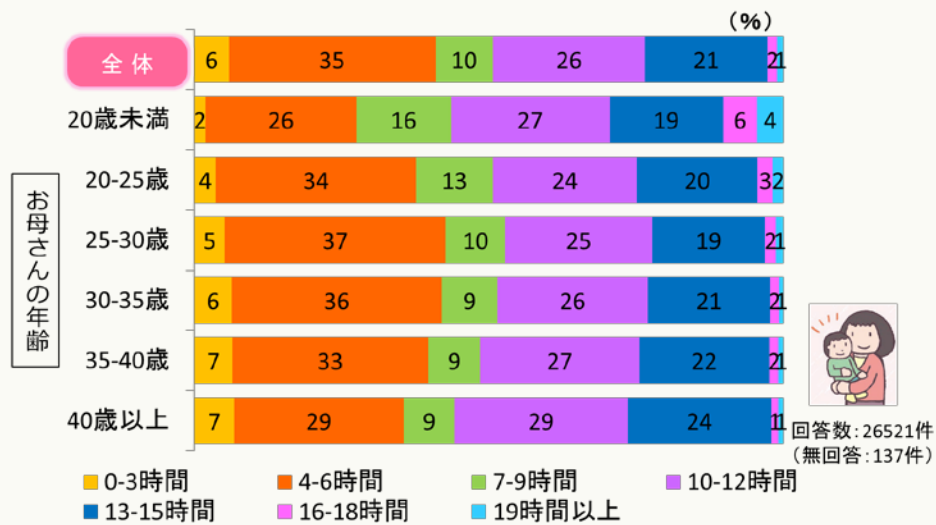
- **先生が発表された子どもの社会性、親子の関わりについて、集計結果をいくつかご紹介いただきたいと思います。**

私はいくつかのコーホート研究に関わっていますが、そのひとつに「すくすくコホート」があります。これは、子どもたちの社会性の発達というのが、どういう風に育っていくのかというのを、脳科学を基盤として、エコチル調査と同じようなコーホート研究で行った研究です。

「ほめて育てる」により子どもの社会性の発達がよくなるとか、乳児期にその母親との話しかけの時間が多くあると、やっぱりその幼児期の社会性が促進するといったことがわかりました。

そもそも社会性というのは、人間関係を形成する基盤なわけで、「他人と共によりよく生きる」能力という風に言われています。相手の気持ちがわかるとか、相手の立場に立てるとかそういったことです。

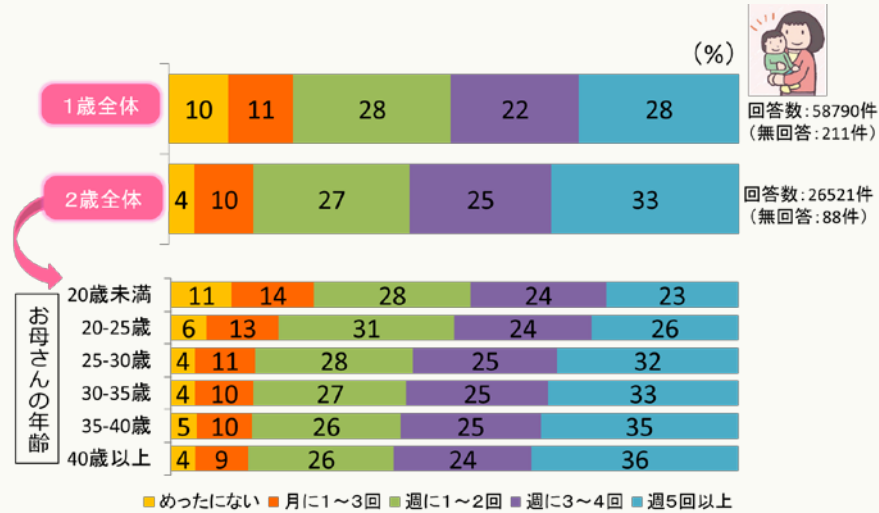
図1 ふだんの1日、お子さんはあなたと何時間くらい一緒に過ごしていますか(2歳時)



(注意)この結果は2014年11月30日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

これは、「ふだんの一日、お子さんはあなたと何時間くらい一緒に過ごしていますか」という質問です。睡眠時間は除きます。「4時間～6時間」というのが一番多いということがわかりました。一方で、子どもと過ごす時間が非常に少ないお母さんもいらっしゃいますし、お母さんの年齢によっても、子どもと一緒に過ごす時間が違うというようなことが、今回わかりました。

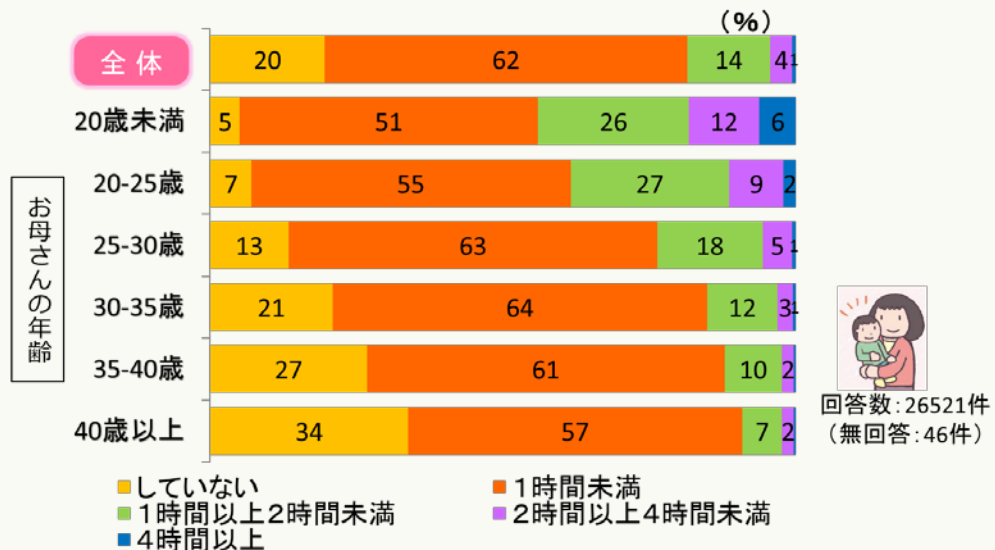
図2 お子さんに絵本を見せながら、話しかける機会はどのくらいありますか(2歳時)



(注意)この結果は2014年11月30日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

続いて、絵本の読み聞かせについてです。絵本の読み聞かせが子どもの発達によいだろうということは、みなさんご理解いただいていることだと思います。エコチル調査の集計結果を見ると、若いお母さんのほうがちょっと読み聞かせの回数が少ないというようなことが、今回わかりました。

図3 お子さんと一緒に過ごしている時間のうち、あなたが、パソコン、携帯電話、携帯情報端末や電子ゲーム機などを使用している時間はどのくらいですか(2歳時)



(注意)この結果は2014年11月30日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

最近ちょっとこれはどうかな、と思うのは、「子どもが泣きだしたらスマホ見せて、それで泣きやませる」というようなお母さんがいらっしゃるということです。

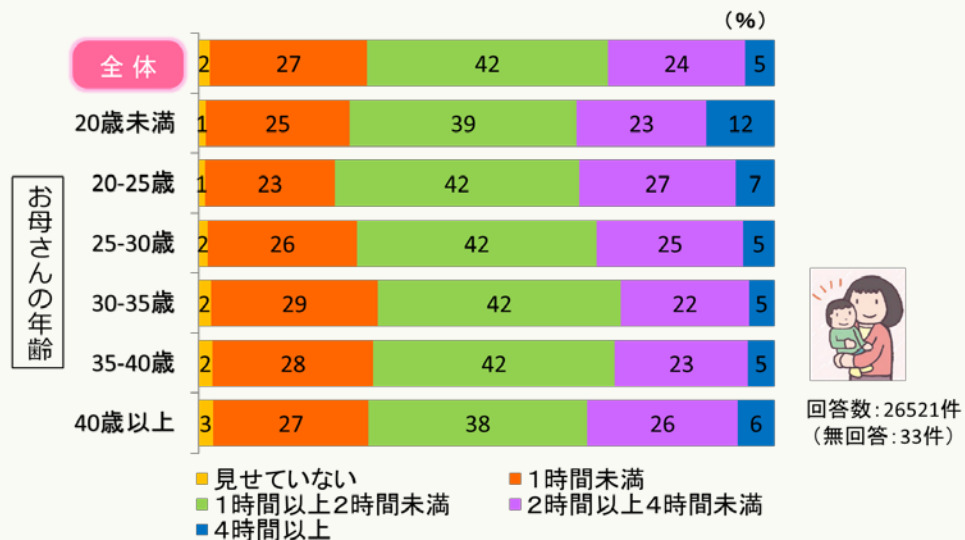
ICT(情報通信技術)と子どもの健康の関係については、子どもがど

れぐらい使うかという調査はたくさんあるのですが、エコチル調査のように、お母さんがどれぐらい使っているかという調査は、実はあまりないのです。

今回の集計結果を見ると、子どもと一緒にいるときにまったくスマートフォンなどを使っていない人は2割で、8割の人が使っています。中には、2時間以上使っているという人が20%近くおり、しかも、若いお母さんほどたくさんスマートフォンなどを使っているということがわかりました。

では、これが、親子の関わりや子どもの発達にどのような影響があるのかというのは、これから、追跡調査をして調べていく必要があるところだと思います。

図4 ふだんの1日、お子さんにテレビやDVDなどを何時間くらい見せていますか(2歳時)



(注意)この結果は2014年11月30日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

テレビやDVDに関しては、もう10年以上前に、最初はアメリカの小児科学会から、その後、日本の小児科学会等からも、テレビなどは一日に2時間まで、例えばセサミストリートのような教育番組であっても子どもに見せるのは2時間までにしましょうという提言がされたのです。テレビの長時間視聴はコミュニケーション能力の発達を阻害するというのがその理由です。その後これを守っていらっしゃるお母さんが多いのですが、今回の集計結果を見ると、2時間以上テレビなどを見せているお母さんが3割くらいいらっしゃいます。

テレビなどを長時間見せるのは子どもの発達などに影響があると言われてはいるのですが、それが本当に2時間なのか、1時間でも駄目なのか、多いと本当に駄目なのか、あるいは、たくさん見せていても、こういうことをしていると特に問題が出ないとか、いろんなことがこれから

エコチル調査でわかってくるのだらうと思っています。

最近でも、ネット依存やゲーム依存で小児科の外来に来られるお子さん達が増えてきたため、日本小児保健協会、日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児期外科系関連学会協議会と一緒に提言を発表しています。

保護者、学校、医療関係者、ICTに関するいろいろなものを開発・普及する事業者、そして研究者といった各主体に向けて提言が出されました。( [http://plaza.umin.ac.jp/~jschild/conf/pdf/2015\\_ict.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~jschild/conf/pdf/2015_ict.pdf) )

今後は、電子機器類より絵本の読み聞かせのほうがいいのか、そうでないのかといったようなことを、エコチル調査から検証していかなければいけないのだらうと思います。

また、何をもってその影響がいいのか悪いのかとか、ICTが、こういう健康問題に対しては悪いけれども、こちらのほうに対しては良いとか、そういうようなこととかもわかると思います。お子さんが置かれている環境には、いろいろな状況があるわけで、その組み合わせでもっと悪くなったり、負の部分がカバーされたりということも考えられます。

そういうことが、10万人による大量の情報を集めることによってわかってくるのだらうと思います。

ー 本日はどうもありがとうございました。

(2015年2月27日)



■今月のエコチル先生

**山縣然太郎 先生**

山梨大学大学院 総合研究部医学域社会医学講座  
エコチル調査 甲信ユニットセンター長  
戦略広報委員会 委員長  
参加者コミュニケーション専門委員会 委員長